

令和6年度

橋梁長期保全事業

造賀東4号線1号橋橋梁補修工事

仕様書

施 工 箇 所 東広島市高屋町造賀

位置図



特記仕様書

(令和6年度 橋梁長期保全事業 造賀東4号線1号橋橋梁補修工事)

第1章 総則

1. 適用
2. 前払金
3. 現場代理人の兼務
4. 現場作業終期日
5. 履行報告
6. 官公庁等への手続き等
7. 工事中情報共有システム（受注者希望型）
8. 熱中症対策に資する現場管理費の補正
9. 主任(監理)技術者及び現場代理人の配置について
10. 法定外の労災保険の付保
11. 週休2日適用工事等
12. 建設副産物の取り扱いについて

第2章 施工条件

1. 工程
 - (1) 関係機関との協議
2. 安全対策
 - (1) 交通誘導警備員・警戒船・保安要員
3. 建設副産物
 - (1) コンクリート殻（無筋）（搬出）

第3章 施工管理

1. 品質管理
 - (1) 断面修復工

第4章 その他

1. 工事関係書類
2. 工事写真
3. 疑義の解決等

特記仕様書

第1章 総則

1. 適用

本工事の施工にあたっては、「土木工事共通仕様書（令和6年8月）広島版（適用区分「広島」及び「広島県」）」及び東広島市制定の第15編下水道編(最新版)に基づいて実施しなければならない。
この場合においては、次のとおりとする。

- (1) 「広島県」とあるのは「東広島市」と読み替える。（ただし、第1編第1章第1節1-1-1-25第10項、第1編第1章第2節1-1-2-1第3項、1-1-2-8第1項、1-1-2-9第1項、1-1-2-10第1項、1-1-2-11第1項、第6項、第8項、1-1-2-14第2項、1-1-2-16第1項、第3項、第2編第1章第3節2-1-3-1、第3編第1章第2節3-1-2-3第2項においては読み替えない。）
- (2) 「建設工事請負契約約款」とあるのは「東広島市の建設工事請負契約約款」と読み替える。
- (3) 「土木工事監督規程」とあるのは「東広島市建設工事監督事務取扱要綱」と読み替える。
- (4) 「土木工事検査規程」とあるのは「東広島市建設工事検査規程」と読み替える。
- (5) 「建設工事執行規則第19条の1」とあるのは「東広島市建設工事執行規則第19条第1項」と、「建設工事執行規則第41条の2」とあるのは「東広島市建設工事執行規則第41条第2項」と読み替える。
- (6) 「広島県契約規則第2条の1」とあるのは「東広島市契約規則第2条第1項」と読み替える。
- (7) 「土木工事検査技術基準」とあるのは「東広島市の「土木工事検査技術基準」」と読み替える。
- (8) 「低入札価格調査制度事務取扱要綱」とあるのは「東広島市低入札価格調査制度事務取扱要領」と読み替える。
- (9) 「広島県の建設工事入札参加資格」とあるのは「東広島市の競争入札参加資格」と読み替える。
- (10) 広島県の「建設業者等指名除外要綱」とあるのは東広島市の「建設業者等指名除外基準要綱」と読み替える。
- (11) 「建設工事における低入札価格調査制度事務取扱要綱」とあるのは「東広島市低入札価格調査制度事務取扱要領」と、「建設工事における低入札価格調査制度事務取扱要綱第10条」とあるのは「東広島市低入札価格調査制度事務取扱要領第11条」と読み替える。
- (12) 「県発注工事等における暴力団排除のための契約制限要綱」とあるのは「東広島市建設工事暴力団等排除要綱」と読み替える。

(13) その他

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項
1	1	2	5	工事の下請負	3から6まで	適用しない。
1	1	2	14	施工管理	1	適用しない。
1	1	2	16	環境対策	4	適用しない。
1	1	3	3	現場代理人及び主任技術者又は監理技術者	5から6まで	適用しない。
1	1	3	4	下請負及び契約の制限	1(2)	適用しない。
1	1	3	5	主要資材の購入		適用しない。
1	1	3	7	契約後VE工事		適用しない。
1	1	3	9	県産木材の活用	(2)	適用しない。
1	1	3	10	工事現場の現場環境改善等		適用しない。
1	1	3	11	現場環境改善（ウィークリースタンス）の実施	(4)[2]から[7]まで	適用しない。
3	1	1	1	請負代金内訳書		適用しない。
3	1	1	2	工程表		適用しない。
3	1	1	7	工事完成図書の納品	2から6まで	適用しない。
3	1	1	8	技術検査	3から5まで	適用しない。
3	1	2	1	請負代金内訳書		適用しない。
3	1	2	2	工程表		適用しない。
3	1	2	5	工事完成図書の納品		適用しない。
3	1	2	6	提出書類	2	適用しない。
3	1	3	1	工事完成図書の納品		適用しない。
3	1	3	2	技術検査	2	適用しない。

2. 前払金

契約金額が50万円以上の建設工事の場合は前払金を請求することができる。前払金は請負代金の40%以内とする。また、契約に当たって契約約款特約事項第22項により中間前払金を選択するものにあつては、中間前払金は請負代金の20%以内とする。その他、前金払・中間前金払の適用は次の要領による。

- ・建設工事請負代金前金払実施要領
- ・建設工事請負代金中間前金払実施要領
- ・東広島市余裕期間制度適用工事に係る事務取扱要領

3. 現場代理人の兼務

- 1 現場代理人の兼務については、「技術者等の適正配置について」によるものとする。
 - 2 発注者は、受注者からの申請に基づき、兼務する各工事の内容、工程等を勘案し、現場代理人の兼務について承認の適否を決定し、承認する場合は現場代理人兼務承認書により、承認しない場合は現場代理人兼務非承認書に承認しない理由を記載の上、速やかに受注者に通知する。
 - 3 発注者は現場代理人の兼務について、次に掲げる事由に該当すると認めたときは、現場代理人兼務承認取消書により、その承認を取消すものとする。
 - (1) 兼務を予定する工事の発注者が兼務を承認しないことが明らかになったとき
 - (2) 兼務を承認した日から起算して14日(東広島市の休日を定める条例(平成元年東広島市条例第6号)第1条第1項に規定する市の休日を除く。)を経過した後においても、兼務先の発注者が兼務を承認したことを証する書面の写しが提出されないとき
 - (3) 兼務申請において、重要な事項について虚偽の申告をし、又は重要な事実の申告を行わなかったことが判明したとき
 - (4) 兼務の承認後、重要な事項や重大な状況の変化について報告を行わない等、必要な報告を怠ったことが判明したとき
 - (5) 著しい状況の変化により、兼務を承認することが適当でなくなったとき
 - (6) その他、発注者が兼務を承認することが適当でなくなったとき
 - 4 重要な事項について虚偽の申告を行う等、不適切な申請を行った者、又は、兼務の承認後に重要な事項や重大な状況の変化について報告を行わない等、必要な報告を怠った者に対しては、請負契約に基づく是正措置の請求や指名除外等の必要な措置を行うことがある。
- ※ 同一町内における町とは西条町、八本松町、志和町又は高屋町にあつては昭和49年4月20日前の町の区域とし、黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町又は安芸津町にあつては平成17年2月7日前の町の区域とする。

4. 現場作業終期日

本工事の施工に当たっては、工期末の30日前までに、下記の作業を終了しなければならない。

- ・直接工事費に該当する現場作業

なお、現場作業終期日までに適時、速やかに「土木工事共通仕様書(令和6年8月)広島版」第1編1-1-1-22第2項第3号に記載してある出来高が確認できる資料を監督職員に提出しなければならない。

5. 履行報告

履行報告の提出にあたっては、実施工程表と平面図(施工済み箇所を着色)又は、進捗状況が確認できる写真を添付すること。なお、月締め報告とし、翌月7日までに提出すること。

6. 官公庁等への手続き等

受注者は、関係官公庁及びその他の関係機関との諸手続きにおいて許可、承諾等を得た場合はその書面(写し)を提出するものとし、更新手続き(許可内容が同じもの)の場合は、届出等の鑑のみとする。

7. 工事中情報共有システム（受注者希望型）

- (1) 本工事は、工事中情報共有システムの対象（受注者希望型）である。
- (2) 工事中情報共有システムの利用するにあたり、発注者に連絡の上、利用申込すること。
- (3) 本工事で使用する情報共有システムは次のとおり。
広島県工事中情報共有システム（一般社団法人 広島県土木協会）
<http://www.hdobokuk.or.jp/koujijyoushishutemu2.html>
- (4) 工事中情報共有システム利用に必要な費用は設計金額に含まれている。
- (5) 利用にあたっては「東広島市発注工事における広島県工事中情報共有システム利用実施要領」に基づくこと。
- (6) 運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」に基づくこと。

この場合においては、次のとおりとする。

- 1) 「1.3.適用する基準」のうち、「土木工事監督規定（広島県）」および「土木工事監督実施要領（広島県）」は「東広島市建設工事監督事務取扱要綱」と、「土木工事検査規定（広島県）」とあるのは「東広島市建設工事検査規定」と、「土木工事検査技術基準（広島県）」とあるのは「土木工事検査技術基準（東広島市）」と読み替えるものとする。
- 2) 「CAD製図基準（国土交通省）」および「CAD製図基準に関する運用ガイドライン（国土交通省）」は適用しない。
- 3) 「4.検査」は適用しない。
- 4) 検査は、発注者と協議のうえ、紙媒体による検査と電子検査の併用とすることができるものとする。
- 5) 受注者は、工事中情報共有システムにより処理した工事完成図について、電子成果品として納品するほか、紙の成果品も納品すること。

8. 熱中症対策に資する現場管理費の補正

- (1) 本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して、現場管理費の補正を行う工事である。
- (2) 工期(工事の始期日から工事の終期日までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日、後片付け期間の合計をいう。なお、検査期間13日、年末年始6日間（12月29日～1月3日）、夏季休暇3日間（国民の祝日である山の日次の日から土曜日、日曜日、振替休日を除く3日間とする。）、工場制作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。）期間中の真夏日の状況に応じて、変更契約時に現場管理費の補正を行うものとする。
- (3) 真夏日とは、日最高気温が30度以上の日をいう。また、日最高暑さ指数（WBGT）が25度以上の日をいう。
ただし、夜間工事のみの場合は、作業時間帯の最高気温または最高暑さ指数（WBGT）を対象とする。
- (4) 気温の計測箇所及び結果は、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温または環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）を用いることを標準とする。
- (5) 受注者は、工事期間中における気温の計測箇所、用いる計測値及び計測期間（計測開始日、計測終了予定日）を明記した施工計画書を工事着手前に提出し、計測結果を工事完成時までに監督職員に提出すること。
- (6) 受注者は、計測終了日について、工事完成時までに監督職員と協議するものとする。
- (7) 積算方法は次のとおりとする。

1) 補正方法

ア 受注者より提出された計測結果の資料を基に、補正値を算出し現場管理費率に加算する。
なお、現場管理費率の補正は「積雪寒冷地域で施工時期が冬期となる場合の補正」、「緊急工事の場合」及び本補正値を合計し、2%を上限とする。

イ 真夏日率＝工期期間中の真夏日÷工期

ウ 補正値（%）＝真夏日率×1.2

- 2) 補正値の計算結果は、パーセント表示で小数点3位を四捨五入して2位止めとする。

- (8) 受注者より、熱中症対策に資する現場管理費の補正が不要である旨の協議があった場合は、補正を行う工事から対象外とすることができる。
- (9) 検査職員から修補の指示があった場合、修補期間は対象外とする。

9. 主任(監理)技術者及び現場代理人の配置について

東広島市発注工事における主任(監理)技術者及び現場代理人の配置についての取り扱いは、「技術者等の適正配置について」によるものとする。

10. 法定外の労災保険の付保

- 1 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。
- 2 受注者は、建設工事請負契約約款第47条に基づき、法定外の労災保険の契約締結をしたときは、その証券又はこれに代わるものを速やかに監督職員に提示しなければならない。
- 3 法定外の労災保険は、政府の労働者災害補償保険とは別に上乗せ給付等を行うことを目的とするものであり、(公財)建設業福祉共済団、(一社)全国建設業労災互助会、全日本火災共済協同組合連合会、(一社)全国労働保険事務組合連合会又は保険会社との間で、契約を締結しているものとする。

11. 週休2日適用工事等

本工事は、週休2日適用工事(発注者指定型)であり、「東広島市週休2日適用工事等実施要領(最新版)」又は「東広島市週休2日適用工事等実施要領(農林工事)(最新版)」に従うこと。

なお、実施要領に基づき提出する必要がある様式「休日取得計画表」は「検査課HP>施工関連資料>週休2日適用工事等の実施について」に掲載している。

12. 建設副産物の取り扱いについて

本工事における建設副産物の取扱いについては、土木工事共通仕様書1-1-2-11 建設副産物のとおり取り扱うこととする。なお、「再生資源利用計画」、「再生資源利用促進計画」及び「実施書の提出」については、次のとおりとする。

1 再生資源利用計画及び再生資源促進計画

受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令に基づき、再生資源利用計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。また、受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥又は建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令に基づき、再生資源利用促進計画(5の確認結果票を含む)を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。なお、その内容に変更が生じたときは、速やかに利用計画及び促進計画を変更し、監督職員に報告しなければならない。

2 計画の掲示及び公表

受注者は、1の再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の見やすい場所に掲示(デジタルサイネージによる掲示も可)し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

現場掲示様式については、次のURLを参考に作成すること。

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page_03060101credas1top.htm

3 実施書の提出

受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を作成した場合には、工事完了後速やかに実施状況を記録した再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を監督職員に提出しなければならない。なお、受注者は、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書の作成後、工事完成から5年間保存しなければならない。

4 工事現場の管理体制

受注者は、再生利用の促進を行うため、工事現場における建設副産物責任者を置くことにより、管理体制を整備するとともに、当該責任者に対し、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画の内容について現場担当者の教育を十分行うこと及び、関係する他の施工者及び資材納入業者もこれを周知徹底することを指導するものとする。

- 5 建設発生土搬出に関する関係法令の手続きの確認及び確認結果票の作成
- 受注者は、再生資源利用促進計画の作成にあたり、建設発生土を工事現場から搬出する場合は、あらかじめ次に掲げる事項を確認し、また各事項の確認の結果を記載した書面（確認結果票）を作成しなければならない。
- ※確認結果票は「広島県の調達情報」に掲載している。
- なお、対象となる工事は請負代金額が100万円以上、または建設発生土の搬出が500m³以上の工事を対象とする。
- (1) 工事現場内の土地の掘削その他の土地の形質の変更が土壤汚染対策法（平成14年法律第53号）第3条第7項又は第4条第1項の規定による届出を要する場合にあっては、当該届出がされている。
- (2) 再生資源利用促進計画に記載しようとする搬出先における建設発生土の搬入に係る行為に関する次に掲げる事項
- (1) 当該行為が宅地造成及び特定盛土等規制法（昭和36年法律第191号。以下「盛土規制法」という）第12条第1項、第16条第1項、第30条第1項又は第35条第1項の規定による許可を要する場合にあっては、当該許可を受けている。
- (2) 当該行為が盛土規制法第21条第1項、第27条第1項、第28条第1項又は第40条第1項の規定による届出を要する場合にあっては、当該届出がされている。
- (3) 上記(1)、(2)に掲げる事項のほか、再生資源利用促進計画に記載しようとする搬出先が適正であることを確認するために必要な事項その他の建設発生土の搬出に関する事項
- 6 運搬業者への通知
- 受注者は、建設発生土の運搬を行う者に対し、再生資源利用促進計画及び確認結果票の内容を通知するものとする。またその内容に変更が生じたときには、速やかに運搬を行う者に通知するものとする。
- 7 確認結果票の掲示及び公表
- 受注者は、確認結果票を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。
- 8 確認結果票の保管
- 受注者は、確認結果票を建設工事の完成後5年間保存するものとする。
- 9 建設発生土の搬出先に対する受領書の交付請求
- 受注者は、建設発生土を再生資源利用促進計画に記載した搬出先へ搬出したときは、速やかに当該搬出先の管理者（搬出先が工事現場である場合は、当該工事現場の受注者）に対し、次に掲げる事項を記載した受領書の交付を求めるものとする。
- (1) 建設発生土の搬出先の名称（搬出先が工事現場である場合は、建設工事の名称。）及び所在地
- (2) 建設発生土を搬出先の受注者の商号、名称又は氏名
- (3) 建設発生土の搬出元の名称及び所在地
- (4) 建設発生土の搬出量
- (5) 建設発生土の搬出が完了した日
- 10 建設発生土の搬入元への受領書の交付
- 受注者は、建設発生土を利用計画に記載した搬入元から搬入したときは、速やかに当該搬入元の管理者（搬入元が工事現場である場合は、当該工事現場の受注者）に対し、前号に掲げる事項を記載した受領書を交付するものとする。
- 11 受領書の内容確認
- 受注者は、搬出先から受領書の交付を受けたときは、再生資源利用促進計画に記載した内容と一致することを確認する。
- 12 受領書の保管
- 受注者は、受領書又はその写しを建設工事の完成後5年間保存するものとする。
- 13 建設発生土の最終搬出先までの確認
- 受注者は、建設発生土が再生資源利用促進計画に記載した搬出先（次の(1)から(4)のいずれかに該当する搬出先を除く。）から他の搬出先へ搬出されたときは、速やかに、当該他の搬出先への搬出に関する9(1)～(5)に関する事項を記載した書面を作成するとともに、当該書面を当該再生資源利用促進計画に係る建設工事の完成後5年間保存するものとする。建設発生土が更に他の搬出先へ搬出されたときも、同様とする。

- (1) 国又は地方公共団体が管理する場所であって、受入れ完了後に当該国又は地方公共団体が受領書を交付する場合
- (2) 受注者の管理下にある他の工事現場で利用するために一時堆積する場合
- (3) スtockヤード運営事業者登録規定により国に登録されたストックヤード
- (4) 9の受領書の土砂の利用種別が「盛土利用等」である建設発生土受入地（再搬出しないもの）

第2章 施工条件

1. 工程

(1) 関係機関との協議

協議内容 河川管理者（広島県）と河川占用の許可及び河川管理者（漁協）と協議後着手
範囲 橋面工を除く範囲

2. 安全対策

(1) 交通誘導警備員・警戒船・保安要員

交通誘導警備員 ・交通誘導警備員の配置人数は、工事着手後、規制を要する日から2日間（2人／日）を見込んでいる。ただし、現場条件の変更等により、交通誘導警備員の人数変更が必要となった場合には、事前に監督職員と協議を行った上で変更対象とする。

工 種	配置場所	配置人数	施工時間	備 考
	全工事区間	2	8時～17時	

3. 建設副産物

(1) コンクリート殻（無筋）（搬出）

当該工事により発生するコンクリート殻（無筋）は、広島県制定の再資源化施設一覧表に掲載されている施設に搬出するものとする。

搬出先として、運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になる再資源化施設を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き処分に要する費用（単価）は変更しない。

また、運搬距離は 14.0 k m を見込んでいる。

第3章 施工管理

1. 品質管理

(1) 断面修復工

本工事において、断面修復工の品質管理は下記のとおり行うこと。

試験項目	試験方法	規格値	測定箇所	摘 要
引張強度試験		1.5N/mm ² 以上	供試体	

第4章 その他

1. 工事関係書類

(1) 工事関係書類の作成は、東広島市建設工事関係書類作成要領「土木工事編」によるものとする。

(2) 工事関係書類の提出は、「契約関係書類」1部、「施工管理書類」は、工事打合せ簿による場合は2部、その他による場合は1部とする。

2. 工事写真

工事写真の撮影に当っては、広島県制定「写真管理基準(令和6年8月)」によるものとし、工事写真の提出部数は、工事写真帳と原本(電子媒体)を各1部提出する。

3. 疑義の解決等

本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督職員と協議し決定すること。

工事数量総括表

頁0 -0001

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
本工事費					
橋梁保全工事		式		1	レベル1
橋梁補修工		式		1	レベル2
ひび割れ補修工		式		1	レベル3
低圧注入工法	L=5.6m	構造物		1	レベル4
断面修復工		式		1	レベル3
左官工法	V=0.56m3 鉄筋ケレン・防錆有	構造物		1	レベル4
表面保護工		式		1	レベル3
下地処理	サンダーケレン	m2		51	レベル4
含浸材塗布工	亜硝酸リウム併用型シリコン系表面含浸材 リハビリ工法プロコンガードS相当	m2		51	レベル4
橋梁付属物工		式		1	レベル3
水切工		m		17	レベル4
防護柵設置	路側用_A・B・C種	m		16	レベル4
防護柵設置（袖部）	路側用_C種	枚		4	レベル4
橋面工		式		1	レベル2
伸縮目地対策工		式		1	レベル3
伸縮目地対策工		m		8.6	レベル4
構造物撤去工		式		1	レベル2

工事数量総括表

頁0 -0002

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
防護柵撤去工		式		1	レベル3
防護柵撤去(ガードレール)	路側用_A・B・C種(旧_Ap・Bp・Cp種)	m		18	レベル4
運搬処理工		式		1	レベル3
殻運搬	Co殻（無筋）	m3		0.5	レベル4
殻処分	Co殻（無筋）	t		1	レベル4
現場発生品運搬	ガードレール	式		1	レベル4
スクラップ		t		0.2	レベル4
仮設工		式		1	レベル2
交通管理工		式		1	レベル3
交通誘導警備員		人		4	レベル4
直接工事費					
共通仮設費率分					
共通仮設費計					
純工事費					
現場管理費					
工事原価					
一般管理費率分					
契約保証費					

工事数量総括表

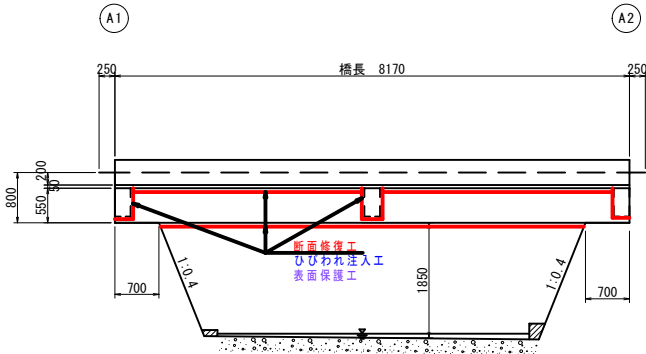
頁0 -0003

[illegible]

(造賀東4号線1号橋)補修一般図

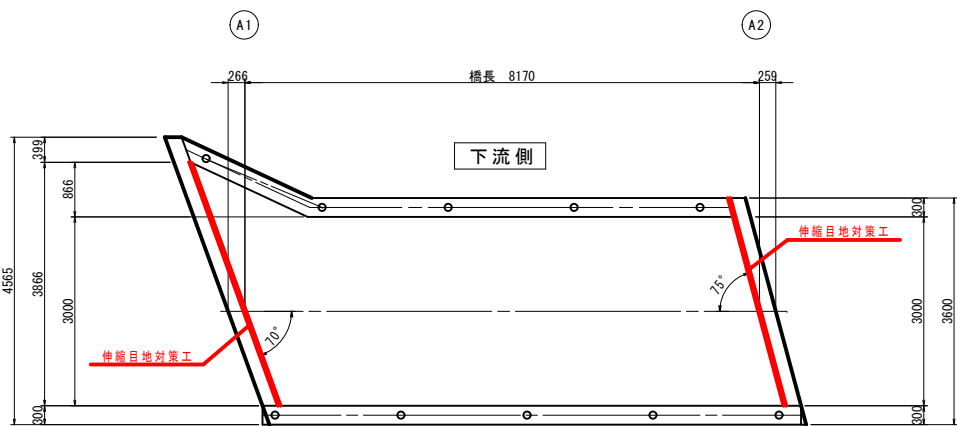
S=1/30

側面図 S=1/30



平面図 S=1/30

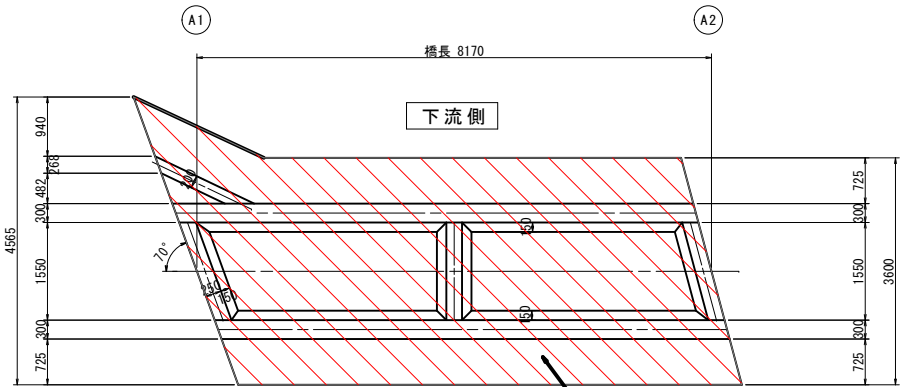
橋面



上流側



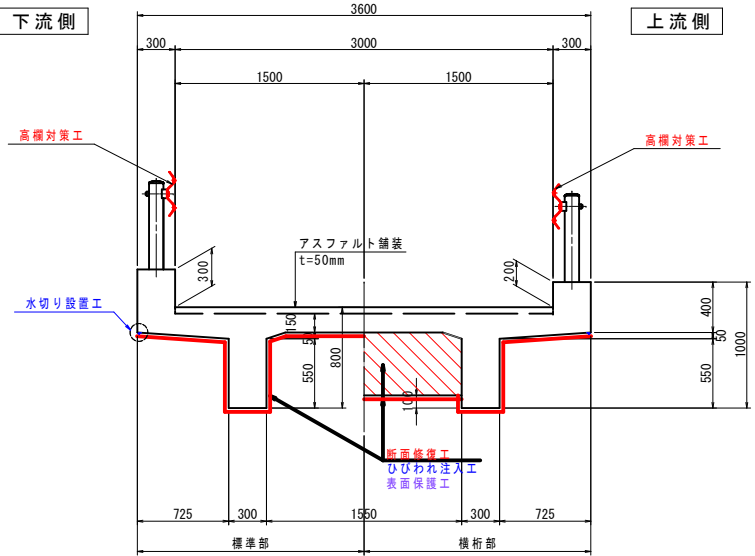
桁下面



上流側



断面図 S=1/30

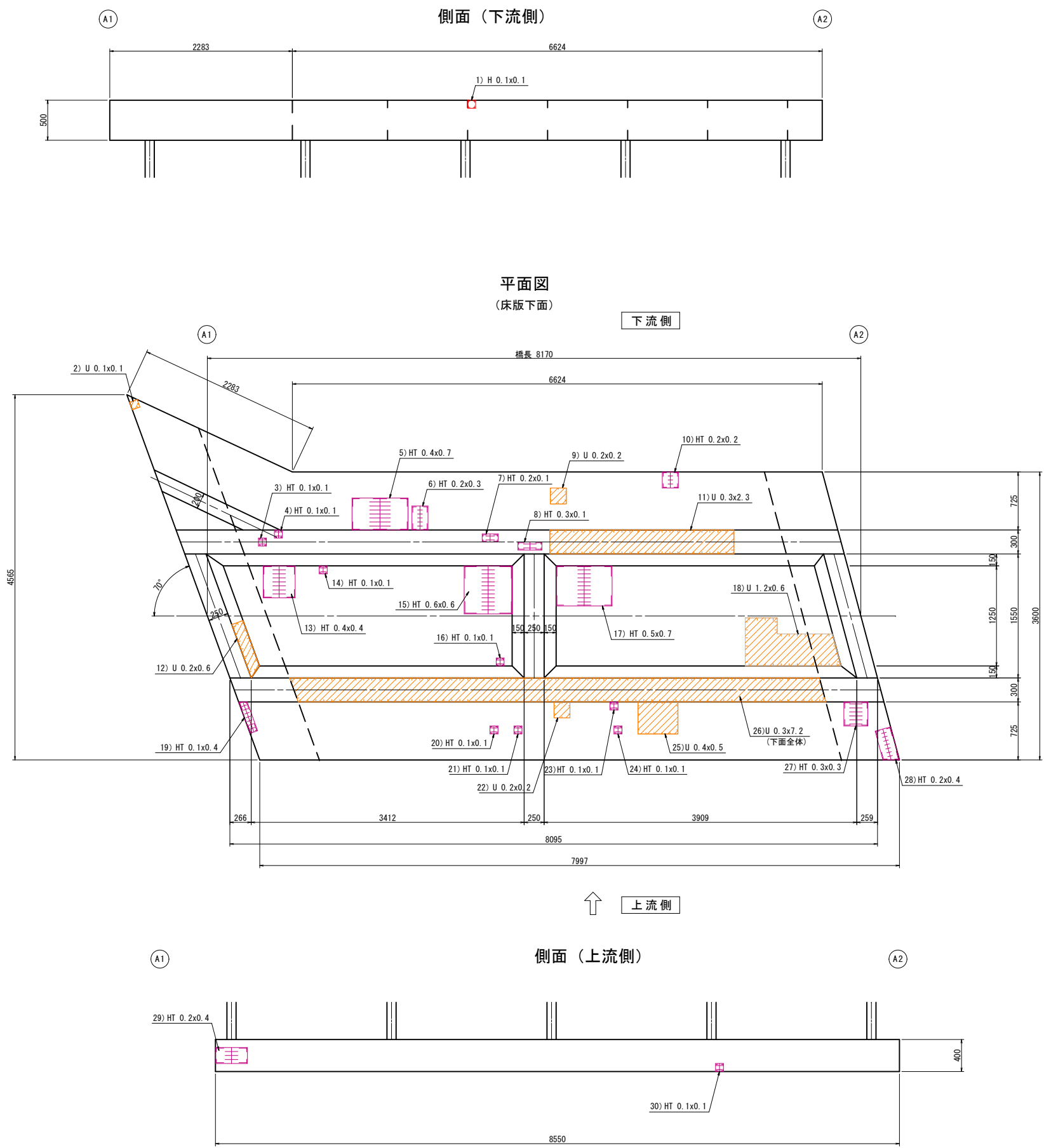


補修項目一覧表

補修項目	補修部位	損傷対策	摘要
断面修復工	床版・主桁	構造性能回復	ポリマーセメントモルタル(左官工法)
表面保護工	床版・主桁	劣化因子遮断対策	表面含浸工(シラン・シロキサン系表面含浸材)
ひびわれ注入工	主桁	構造性能回復	セメント系注入材(亜硝酸リチウム先行注入)
水切り対策工	床版	伝い水に伴う損傷抑制	後付け水切材
伸縮装置対策工	伸縮目地	経年に伴う止水性能の低下	止水目地対策
高欄対策工	ガードレール腐食	経年に伴う腐食劣化	レール更新対策

図面番号	／	縮 尺	図 示
工 種	橋梁長期保全事業		
種 別	補修一般図	番 号	1 ／ 1
橋梁名	造賀東4号線1号橋		
工事箇所	東広島市高屋町造賀		
東 広 島 市			

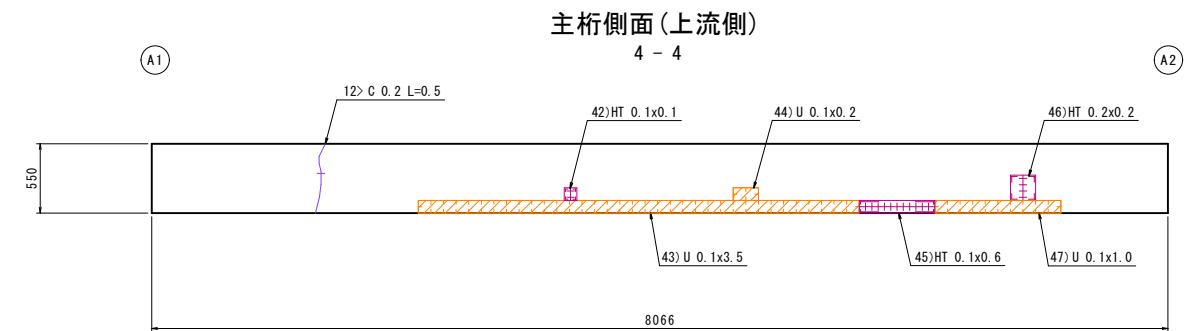
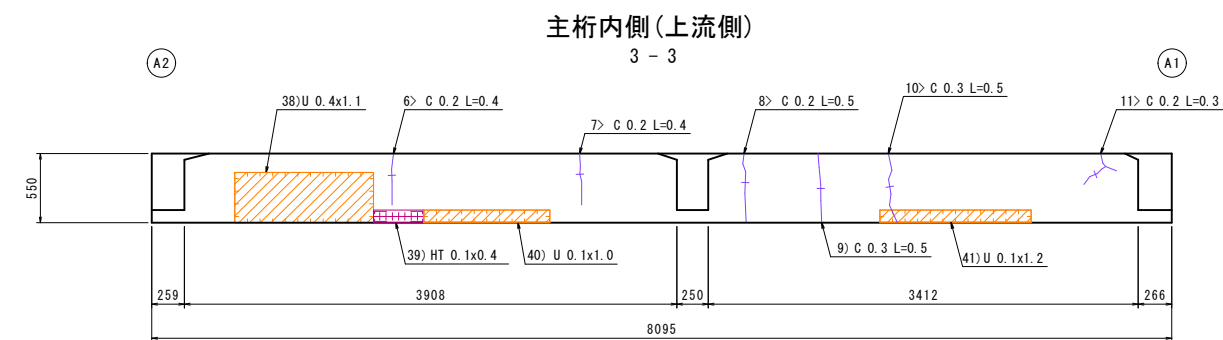
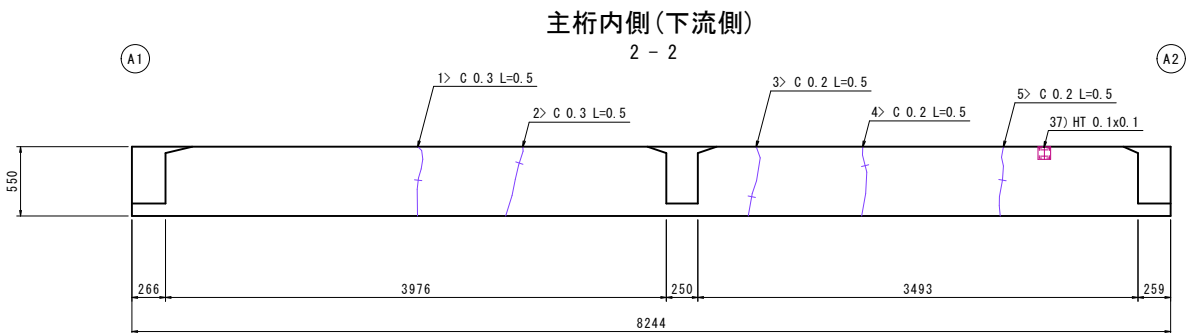
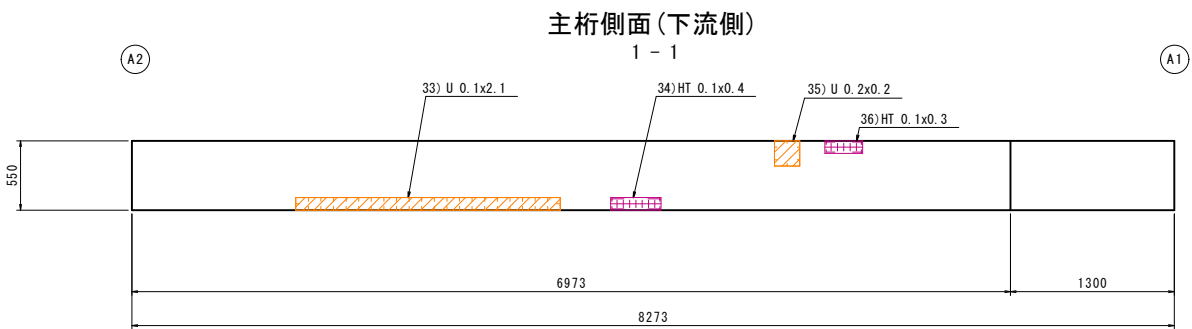
造賀東4号線1号橋 補修図(その1) S=1/30



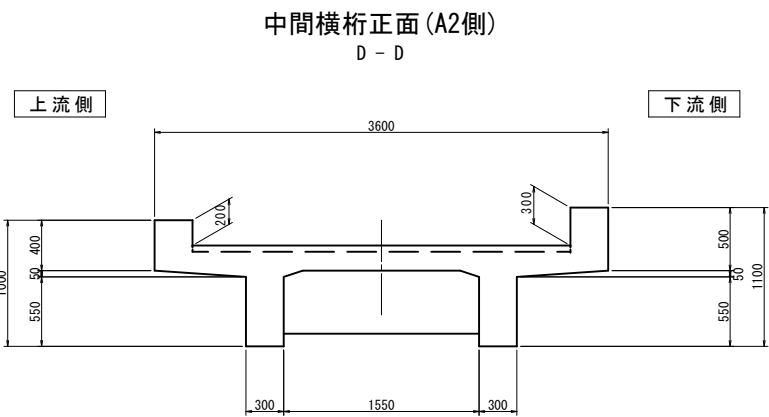
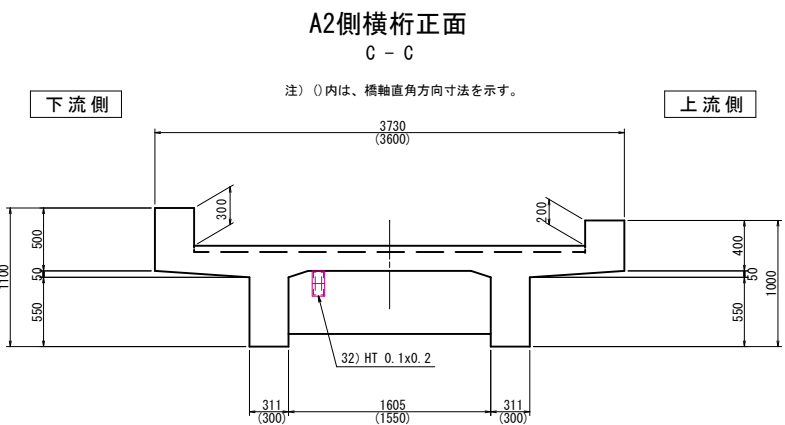
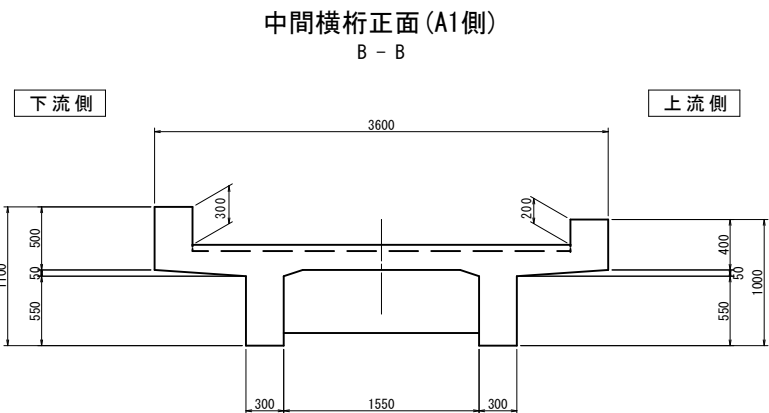
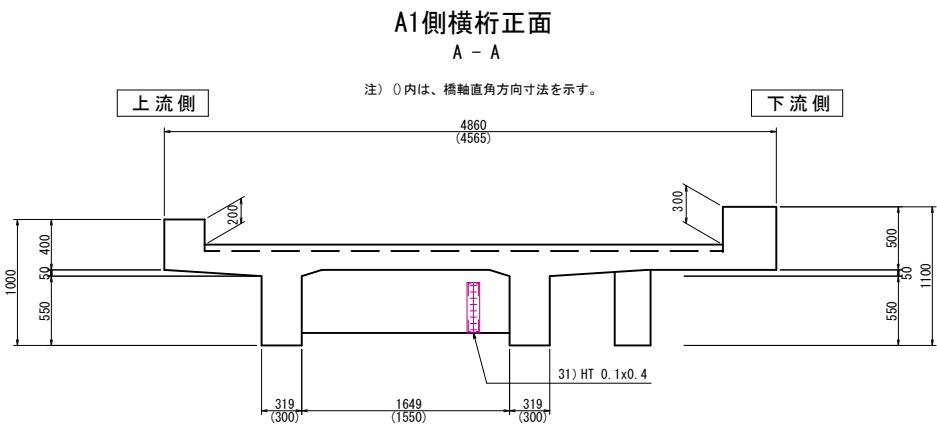
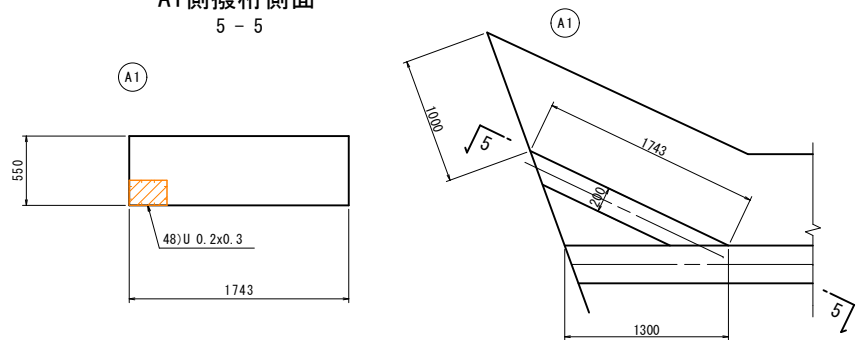
凡 例	
C	ひび割れ (0.2~1.0mm未満)
CY	遊離石灰を伴うひび割れ (0.2~1.0mm未満)
C	ひび割れ (1.0mm以上)
CY	遊離石灰を伴うひび割れ (1.0mm以上)
U	コンクリートの浮き
H	コンクリートの剥離
HT	コンクリートの剥離・鉄筋露出
Y	遊離石灰又はエフロレッセンス
R	漏水
M	ジャンカ

図面番号	／	縮 尺	図 示
工 種	橋梁長期保全事業		
種 別	補修図(その1)	番 号	1 ／ 3
橋梁名	造賀東4号線1号橋		
工事箇所	東広島市高屋町造賀		
東 広 島 市			

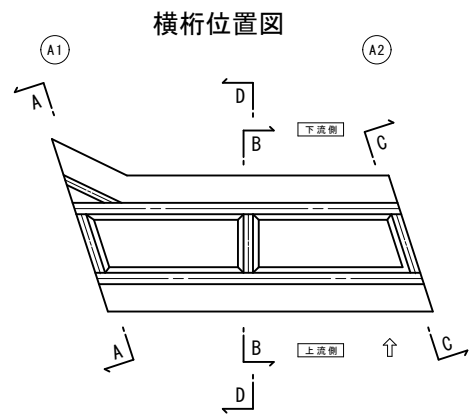
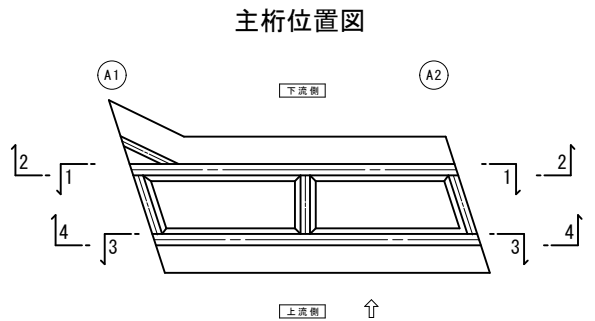
造賀東4号線1号橋 補修図(その2) S=1/30



A1側撥桁側面
5-5

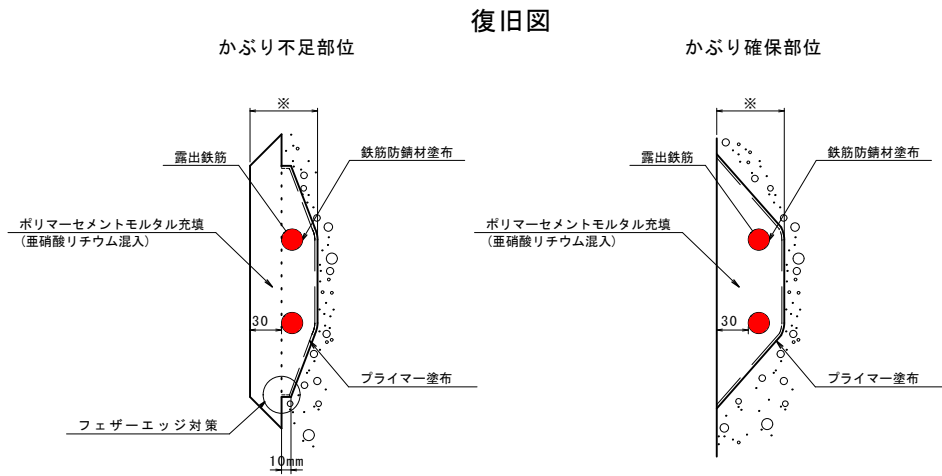


凡 例	
	C ひび割れ(0.2~1.0mm未満)
	CY 遊離石灰を伴うひび割れ(0.2~1.0mm未満)
	C ひび割れ(1.0mm以上)
	CY 遊離石灰を伴うひび割れ(1.0mm以上)
	U コンクリートの浮き
	H コンクリートの剥離
	HT コンクリートの剥離・鉄筋露出
	Y 遊離石灰又はエフロレッセンス
	R 漏水
	M ジャンカ

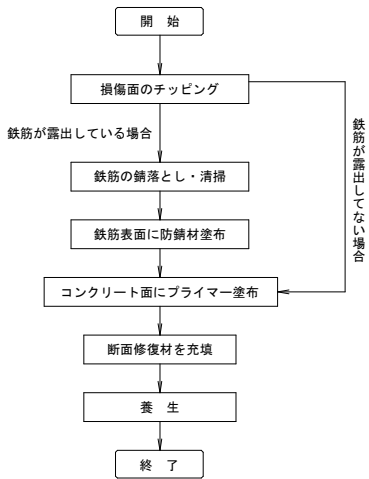


図面番号	／	縮 尺	図 示
工 種	橋梁長期保全事業		
種 別	補修図(その2)	番号	2／3
橋 梁 名	造賀東 4 号線 1 号橋		
工事箇所	東広島市高屋町造賀		
東 広 島 市			

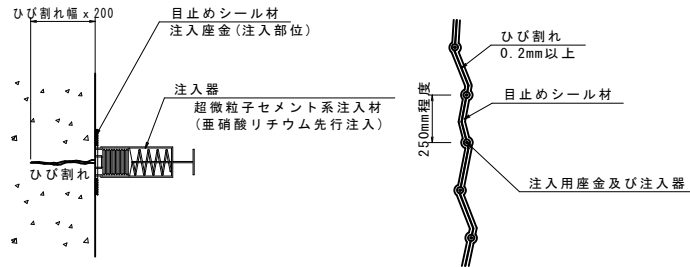
断面修復工詳細図
(左官工法)



施工フロー



ひびわれ注入工詳細図



注記

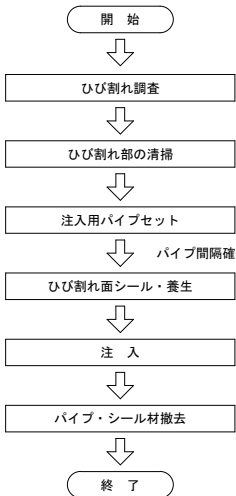
1. シール範囲は施工前に下地処理を行うこと。

2. 下地処理後はエアークリーニングなどで付着した粉塵等を十分除去すること。

材 料 表

工 種	仕 様
ひびわれ注入工	超微粒子セメント系ひびわれ注入材 + 浸透拡散亜硝酸リチウム (40%) 水溶液

施工フロー



注）はつり時において鉄筋腐食が著しく断面欠損している場合には、補強鉄筋を設置する。

床版

※1) かぶり：30mm (道路橋示方書 H29) 以上

※2) はつり厚は鉄筋探索にて20mmであり 60mm=20mm (かぶり)+φ13mm+φ13mm+1D (13mm) とする。

※3) 修復厚は現行かぶりに準拠し30mmとし 70mm=30mm (かぶり)+φ13mm+φ13mm+1D (13mm) とする。

主桁

※1) かぶり：30mm (道路橋示方書 H29) 以上

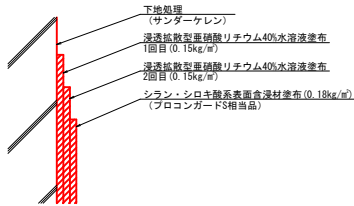
※2) はつり厚は鉄筋探索にて25mmであり 75mm=25mm (かぶり)+φ19mm+φ10mm+1D (19mm) とする。

※3) 修復厚は現行かぶりに準拠し30mmとし 80mm=30mm (かぶり)+φ19mm+φ10mm+1D (19mm) とする。

材 料 表

工 種	仕 様
プライマー	新旧打機用エポキシ系接着剤相当 + 亜硝酸リチウム系表面含浸材
鉄筋防錆材	亜硝酸リチウム含有エポキシ系接着剤
断 面 修 復 工	ポリマーセメントモルタル材 (亜硝酸リチウム混入: 7.47kg/m ³)

表面処理工
(表面含浸工法-シラン・シロキサン系表面含浸材)
(参考図)



※ 表面含浸材は亜硝酸リチウム系表面含浸材・シラン・シロキサン系表面含浸材とする (プロコンガードS相当品)。

※ コンクリート表面のサンダーケレンは十分に行うこと。

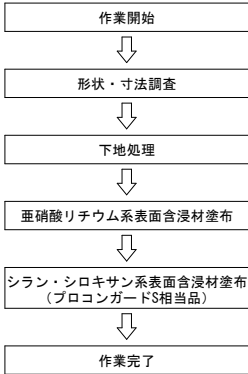
※ 気温5℃以下では施工しないこと。

※ 亜硝酸リチウム系表面含浸材標準塗布量: 0.30kg/m²以上とすること。

※ シラン・シロキサン系表面含浸材標準塗布量: 0.18kg/m²以上とすること。

※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

施工手順



注記

1. 本図面は、調査結果をもとに作成した図面である。

2. 施工時には、天候に十分注意をすること。

3. 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

4. はつり後、鉄筋発錆がある場合は、ワイヤーブラシ等で錆を落とし防錆材塗布する。又、必要に応じて鉄筋を交換する。その後、鉄筋背面まで隙間なくコンクリートの充填を行うこと。

5. はつり断面はフェザーエッジを形成しない様、注意すること。

7. ひびわれ注入材は湿潤注入となるため亜硝酸リチウム (40%) 水溶液を先行注入すること。また、遊離石灰にてひびわれが充填されている場合は、グラインダー等でひびわれ表面出しを施した後に講じること。

8. 防錆材は塗り残しがないよう入念に行うこと。

9. はつり面に凹凸がある場合は既設コンクリート面と修復材との間に空隙が残らない様に適切な処置を行うこと。

10. コンクリートのはつり作業時において補修材及びはつり殻等の落下を防ぐよう防護すること。

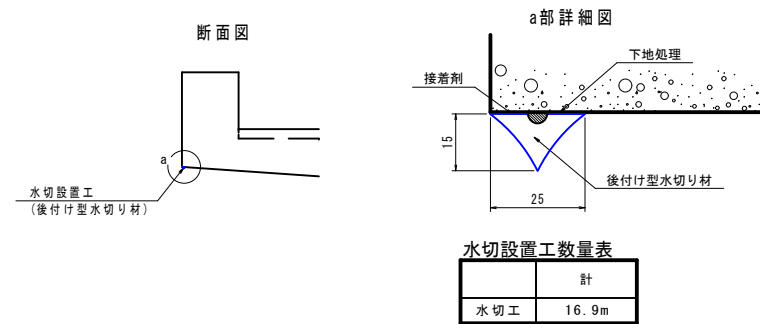
11. 表面被覆材塗布前にはケレン処理、高圧洗浄などにより、塗布面を十分に清掃し、汚れやエフロレッセンスなどを除去すること。

12. 表面被覆材塗布前にはCo損傷部は事前に補修を施すこと。

13. 表面被覆材およびはつり防止材は必要塗布量を満たすように塗布すること。

14. その他予期しない損傷および補修対策を施すことが困難な場合は発注者と協議し対策を講じること。

水切設置工

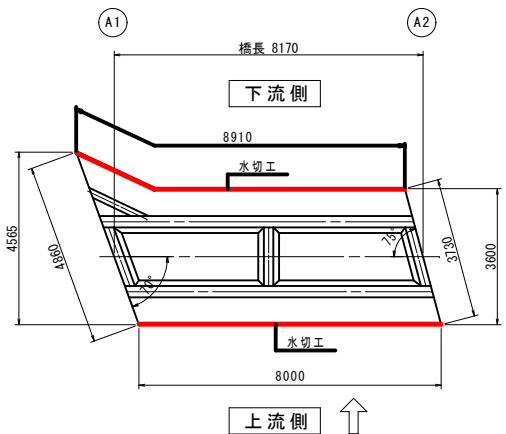


注) 1. ディスクサンダーまたはブラシ等によるケレンを行い、コンクリート表面の塵埃、油脂等の汚れを除去すること。必要に応じてプロアーも併用すること。

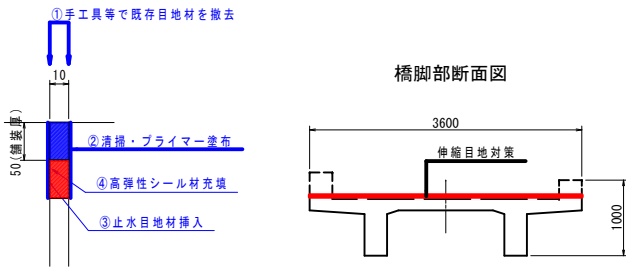
2. 接着剤を塗った水切り材をコンクリート表面に押し付けて取り付けること。

3. コンクリート表面に汚れが残ると接着不良を起こすので、下地処理は適切に行うこと。

平面図



伸縮目地対策工 S=1/2



注) 橋面上において目地部は舗装で埋設されており遊間幅は確認できない。ひびわれ幅等を踏まえ、遊間幅を10mmと想定し対策を講じる。

伸縮目地対策数量表

	A 1 側	A 2 側	計
高弾性シール材	4.86m	3.73m	8.59m
止水目地材	4.86m	3.73m	8.59m

高弾性シール材：ポリブタジエン系シール材 (スカイシール同等品)

止水目地材：止水材 (メジエイド同等品)

図面番号	／	縮 尺	図 示
工 種	橋梁長期保全事業		
種 別	補修図 (その3)	番号	3 / 3
橋梁名	造賀東4号線1号橋		
工事箇所	東広島市高屋町造賀		
東 広 島 市			

参 考 図 書

工 事 名 称 : 令和6年度 橋梁長期保全事業
造賀東4号線1号橋橋梁補修工事

<注意事項>

- 1 本工事は、数量公開の対象工事です。
- 2 この数量書は適正な積算のための参考指標として数量を示すものです。
数量は参考数量であり、設計図書ではありません。内容の如何にかかわらず、
契約上の拘束をするものではありません。

- 3 その他

・当該業務により発生するCo殻は、広島県制定の再資源化施設一覧表に掲載されている
施設に搬出するものとする。搬出先として、次の施設を見込んでいる。

種別	施設の名称	所在地	運搬距離 (km)
Co殻(無筋)	(有)トラスト	東広島市西条町 上三永348-14	14.0

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日	0 44 東広島市 00-07.05.01(0)	《凡例》 Co …コンクリート As …アスファルト DT …ダンプトラック BH …バックホウ CC …クローラクレーン TC …トラッククレーン RTC…ラフテレーンクレーン	
諸経費体系	1 公共(一般)		
	当世代	前世代	
工種 施工地域・工事場所区分 復興補正区分 週休補正区分 現場事務所等の貸与区分 I C T補正区分 冬期補正係数 緊急工事区分 前払金支出割合区分 契約保証区分	41 橋梁保全工事 00 補正なし 00 補正なし 09 閉所型・月単位 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0 % 00 補正無し 01 金銭的保証(0.04%)		
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。			

本工事費 内訳表

頁0 -0002

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
橋梁保全工事					Y1G03 レベル1
橋梁補修工	1	式			Y1G0324 レベル2
ひび割れ補修工	1	式			Y1G032404 レベル3
低圧注入工法 L=5.6m	1	式			Y1G03240402 レベル4
ひび割れ補修工(低圧注入工法) 補修延べ延長25m未満の場合 L=5.6m	1	構造物			S1020035 00
亜硝酸リチウム40%水溶液	0.13	kg			単第0 -0001 表 F0000000004 00
断面修復工	1	式			Y1G032405 レベル3
左官工法 V=0.56m3 鉄筋ケレン・防錆有	1	構造物			Y1G03240501 レベル4

本工事費 内訳表

頁0 -0003

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積0.56m3	1	構造物			S1020041 00 単第0 -0002 表
亜硝酸リチウム40%水溶液	4.3	kg			F0000000004 00
表面保護工	1	式			Y3999 レベル3
下地処理 サンダーケレン	51	m2			Y4999 レベル4
下地処理 サンダーケレン	51	m2			F0000000006 00
含浸材塗布工 亜硝酸リチウム併用型シリシロキサン系表面含浸材 リハビリ工法プロコンガードS相当	51	m2			Y4999 レベル4
表面含浸工 亜硝酸リチウム併用型表面含浸工 シラン・シロキサン系表面含浸材	51	m2			V0000000001 00 単第0 -0003 表
橋梁付属物工	1	式			Y3999 レベル3
水切工	17	m			Y4999 レベル4

本工事費 内訳表

頁0 -0004

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
水切設置工 EPDMスポンジ	17	m			V0000000003 00 単第0 -0004 表
防護柵設置 路側用_A・B・C種	16	m			Y4999 レベル4
防護柵設置工(Gr) レール設置 路側用_A・B・C種 手間+材料費 塗装品C(2.3×350×4330)	16	m			SS000125 00 単第0 -0005 表
防護柵設置 (袖部) 路側用_C種	4	枚			Y4999 レベル4
袖ビーム設置 路側用_C種	4	枚			V0000000010 00 単第0 -0006 表
橋面工	1	式			Y2999 レベル2
伸縮目地対策工	1	式			Y3999 レベル3
伸縮目地対策工	8.6	m			Y4999 レベル4
伸縮目地設置工	8.6	m			V0000000002 00 単第0 -0008 表

本工事費 内訳表

頁0 -0005

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
構造物撤去工	1	式			Y1G0327 レベル2
防護柵撤去工	1	式			Y1G032701 レベル3
防護柵撤去(ガードレール) 路側用_A・B・C種(旧_Ap・Bp・Cp種)	18	m			Y1G03270101レベル4
防護柵設置工(Gr) レール撤去 路側用_A・B・C種(旧_Ap・Bp・Cp種)	18	m			SS000129 00 単第0 -0009 表
運搬処理工	1	式			Y1G032716 レベル3
殻運搬 Co殻(無筋)	0.5	m3			Y1G03271601レベル4
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間無し 運搬距離14.4km以下(10.9km超)	0.5	m3			SPK24040151 00 単第0 -0010 表
殻処分 Co殻(無筋)	1	t			Y1G03271602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041

本工事費 内訳表

頁0 -0006

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
コンクリート殻（無筋）処分費	1	t			F0000000015 00
現場発生品運搬 ガードレール	1	回			Y1G03271603レベル4
現場発生品及び支給品運搬 クレーン装置付BT2t級2.9t吊 片道運搬距離11.0km以下(8.5km超)	0.2	t			SPK24040410 00 単第0 -0011 表
スクラップ	0.2	t			Y4999 レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる	0.2	t			#0041
スクラップ ヘビーH3	0.2	t			F0000000021 00
仮設工	1	式			Y1G0328 レベル2
交通管理工	1	式			Y1G032821 レベル3
交通誘導警備員	4	人			Y1G03282101レベル4

本工事費 内訳表

頁0 -0007

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
交通誘導警備員B					R0369 00
	4	人			
＊＊直接工事費＊＊ #0020計=支給品等(材料),無償貸付					
共通仮設費率分					Z0019
計算情報…… 対象額…… 率……					
＊＊共通仮設費計＊＊					
＊＊純工事費＊＊					
現場管理費 計算情報…… 対象額…… 率……					
＊＊工事原価＊＊					
一般管理費率分 計算情報…… 対象額…… 率……					前払補正率…

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
契約保証費 計算情報…… 対象額…… 率……					当初請対額 当初対象額
一般管理費計					
※※工事価格※※					
※※消費税相当額※※ 計算情報…… 対象額…… 率……					
※※工事費計※※					
※※契約保証費計※※					

施工単価表

ひび割れ補修工(低圧注入工法)
補修延べ延長25m未満の場合

L=5.6m

S1020035

単第0 -0001 表

1

構造物 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.500	人			
特殊作業員	2.400	人			
普通作業員	1.800	人			
ひび割れ注入材 超微粒子セメント系 アーマ#600	0.170	kg			
ひび割れシール材 エポキシ樹脂系 アサヒボンド505	0.671	kg			
低圧注入器	23.000	個			
諸雑費	6	%			#09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=1 【F】 注入材(kg) C=2 【F】 シール材(kg) E=3 【F】 低圧注入器具(個)			B=0.17 注入材の必要数量(kg/構造物) D=0.49 シール材の設計数量(kg/構造物) F=23 低圧注入器具の必要数量(個/構造物)		

施工単価表

頁0 -0010

断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む)

S1020041
修復延べ体積0.56m3

單第0 -0002 表

構造物 当り

[illegible]

施工単価表

表面含浸工

V0000000001

単第0 -0003 表

亜硝酸リチウム併用型表面含浸工

シラン・シロキサン系表面含浸材

100

m2

当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	2	人			
特殊作業員	7	人			
普通作業員	3	人			
亜硝酸リチウム40%水溶液	33	kg			
表面含浸材 シラン・シロキサン系 プロコンガードS相当品	19.8	kg			
雑材料	5	%			#01
*** 合計 ***	100	m2			
*** 単位当たり ***	1	m2			

施工単価表

頁0 -0012

水切設置工 EPDMスポンジ

V0000000003

單第0 -0004 表

100

m

当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0013

**防護柵設置工(Gr) レール設置
路側用_A・B・C種 手間+材料費**

SS000125

單第0 -0005 表

塗装品C(2.3×350×4330)

m

当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0014

袖ビーム設置 路側用_C種

V0000000010

單第0 -0006 表

1 枚 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0015

防護柵設置工(Gr) レール設置
路側用_A・B・C種 手間のみ

SS000125

單第0 -0007 表

1 m 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0016

伸縮目地設置工

V0000000002

單第0 -0008 表

100

m

当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0017

防護柵設置工(Gr) レール撤去
路側用_A・B・C種(旧_Ap・Bp・Cp種)

SS000129

單第0 -0009 表

1 m 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0018

殻運搬
Co(無筋)構造物とりこわし
機械構成比: 41.69% 労務構成比: 43.88% 材料構成比: 14.43% 市場単価構成比: 0.00%

SPK24040151
DID区間無し 運搬距離14.4km以下(10.9km超)

単第0 -0010 表
1
標準単価: m3 2,042.30000 当り

代表機労材規格(積算地区)		構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)		単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		41.69%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)			MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)		43.88%		運転手(一般)			RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油		14.43%		軽油パトロール給油			TTPC00013 TTPT00013
積算単価				積算単価			EP001
A=1 C=1 E=1	Co(無筋)構造物とりこわし DID区間無し -(全ての費用)			B=1 D=50	機械積込 運搬距離14.4km以下(10.9km超)		

施工単価表

頁0 -0019

現場発生品及び支給品運搬
クレーン装置付BT2t級2.9t吊
機械構成比: 13.58% 労務構成比: 83.54% 材料構成比: 2.88% 市場単価構成比: 0.00%

SPK24040410
片道運搬距離11.0km以下(8.5km超)

単第0 -0011 表
標準単価: 1 t 当り
5,144.50000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
トラック クレーン装置付 ベーストラック2t積吊能力2.9t	13.58%		トラック クレーン装置付 ベーストラック2t級吊能力2.9t		MTPC00154 MTPT00154
運転手(特殊)	42.54%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
特殊作業員	41.00%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	2.88%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 C=10 クレーン装置付BT2t級2.9t吊 片道運搬距離11.0km以下(8.5km超)			B=1 DID区間無し		

6.1 造賀東4号線1号橋数量総括表

工 種	種 別	細 別	規格	単 位	合計	備 考
断面修復工	断面修復工 (亜硝酸リチウム)	左官工法	コンクリートはつり	m ²	7.3	
			運搬・処分	m ³	0.5	
			処分費	t	1.2	
			断面修復工 (ポリマーセメントモルタル)	m ³	0.56	
			亜硝酸リチウム水溶液 40%	kg	4.3	混入材
ひびわれ対策工	ひびわれ注入工	注入器		本	23	
		注入延長		m	5.6	
		注入材料	超微粒子セメント	kg	0.17	
			亜硝酸リチウム水溶液 40%	kg	0.13	
		シーリング材	幅20mm 厚3mm	m	5.6	質量 0.49kg
表面保護工	表面含浸工		シラン・シロキサン系 表面含浸材	m ²	50.7	
水切り対策工	水切り対策工	水切設置工	後付け水切材	m	16.9	#####
伸縮目地対策工	伸縮目地対策工	止水目地材	t=10mm用	m	8.6	
		高弾性シール材	ポリブタジエン系シール材	m	8.6	
		シール材重量		kg	5.6	
高欄工	ガードレール設置工	支柱撤去		本	1.0	
		コンクリート削孔	φ22x0.25	孔	8	BP用アンカー
		支柱設置	支柱φ114.3x4.5	本	2	
		レール設置	レール延長	m	16.1	
			袖ビーム	枚	4	
安全管理費	交通誘導員	交通誘導員B		人	4	2人/日

6.2 断面修復工

断面修復工 (ポリマーセメントモルタル)

(1) コンクリートはつり

$$A = 2.7500 + 4.5900 = 7.340 \text{ m}^2$$

(2) 運搬・処分

$$V = 0.16500 + 0.34425 = 0.509 \text{ m}^3$$

(3) 処分費

$$W = 0.509 \times 2.3 = 1.171 \text{ t}$$

(4) 断面修復工 (ポリマーセメントモルタル)

$$V = 0.19250 + 0.36720 = 0.560 \text{ m}^3$$

(5) 亜硝酸リチウム水溶液 40% (混入剤) $W = 7.47 \text{ kg/m}^3$

$$V = 0.560 \times 7.47 \times 1.03 = 4.309 \text{ kg}$$

ロス率

(6) 断面修復集計表

位置	損傷 番号	幅 (mm)	長さ (mm)	はつり数量集計			断面修復数量集計			備考
				はつり厚 (mm)	面積 (m2)	体積 (m3)	補修厚 (mm)	面積 (m2)	体積 (m3)	
床版	1)	100	100	60	0.0100	0.00060	70	0.0100	0.00070	はくり
床版	2)	100	100	60	0.0100	0.00060	70	0.0100	0.00070	うき
主桁	3)	100	100	75	0.0100	0.00075	80	0.0100	0.00080	はくり・鉄筋露出
主桁	4)	100	100	75	0.0100	0.00075	80	0.0100	0.00080	はくり・鉄筋露出
床版	5)	400	700	60	0.2800	0.01680	70	0.2800	0.01960	はくり・鉄筋露出
床版	6)	200	300	60	0.0600	0.00360	70	0.0600	0.00420	はくり・鉄筋露出
主桁	7)	200	100	75	0.0200	0.00150	80	0.0200	0.00160	はくり・鉄筋露出
主桁	8)	300	100	75	0.0300	0.00225	80	0.0300	0.00240	はくり・鉄筋露出
床版	9)	200	200	60	0.0400	0.00240	70	0.0400	0.00280	うき
床版	10)	200	200	60	0.0400	0.00240	70	0.0400	0.00280	はくり・鉄筋露出
主桁	11)	300	2300	75	0.6900	0.05175	80	0.6900	0.05520	うき
床版	12)	200	600	60	0.1200	0.00720	70	0.1200	0.00840	うき
床版	13)	400	400	60	0.1600	0.00960	70	0.1600	0.01120	はくり・鉄筋露出
床版	14)	100	100	60	0.0100	0.00060	70	0.0100	0.00070	はくり・鉄筋露出
床版	15)	600	600	60	0.3600	0.02160	70	0.3600	0.02520	はくり・鉄筋露出
床版	16)	100	100	60	0.0100	0.00060	70	0.0100	0.00070	はくり・鉄筋露出
床版	17)	500	700	60	0.3500	0.02100	70	0.3500	0.02450	はくり・鉄筋露出
床版	18)	1200	600	60	0.7200	0.04320	70	0.7200	0.05040	うき
床版	19)	100	400	60	0.0400	0.00240	70	0.0400	0.00280	はくり・鉄筋露出
床版	20)	100	100	60	0.0100	0.00060	70	0.0100	0.00070	はくり・鉄筋露出
床版	21)	100	100	60	0.0100	0.00060	70	0.0100	0.00070	はくり・鉄筋露出
床版	22)	200	200	60	0.0400	0.00240	70	0.0400	0.00280	うき
床版	23)	100	100	60	0.0100	0.00060	70	0.0100	0.00070	はくり・鉄筋露出
床版	24)	100	100	60	0.0100	0.00060	70	0.0100	0.00070	はくり・鉄筋露出
床版	25)	400	500	60	0.2000	0.01200	70	0.2000	0.01400	うき
主桁	26)	300	7200	75	2.1600	0.16200	80	2.1600	0.17280	うき
床版	27)	300	300	60	0.0900	0.00540	70	0.0900	0.00630	はくり・鉄筋露出
床版	28)	200	400	60	0.0800	0.00480	70	0.0800	0.00560	はくり・鉄筋露出
床版	29)	200	400	60	0.0800	0.00480	70	0.0800	0.00560	はくり・鉄筋露出
床版	30)	100	100	60	0.0100	0.00060	70	0.0100	0.00070	はくり・鉄筋露出
横桁	31)	100	400	75	0.0400	0.00300	80	0.0400	0.00320	はくり・鉄筋露出
横桁	32)	100	200	75	0.0200	0.00150	80	0.0200	0.00160	はくり・鉄筋露出
主桁	33)	100	2100	75	0.2100	0.01575	80	0.2100	0.01680	うき
主桁	34)	100	400	75	0.0400	0.00300	80	0.0400	0.00320	はくり・鉄筋露出
主桁	35)	200	200	75	0.0400	0.00300	80	0.0400	0.00320	うき
主桁	36)	100	300	75	0.0300	0.00225	80	0.0300	0.00240	はくり・鉄筋露出
主桁	37)	100	100	75	0.0100	0.00075	80	0.0100	0.00080	はくり・鉄筋露出
主桁	38)	400	1100	75	0.4400	0.03300	80	0.4400	0.03520	うき
主桁	39)	100	400	75	0.0400	0.00300	80	0.0400	0.00320	はくり・鉄筋露出
主桁	40)	100	1000	75	0.1000	0.00750	80	0.1000	0.00800	うき

[illegible]

ひび割れ注入工

$$L = 3.600 + 2.000 = 5.600 \text{ m}$$
$$W = 0.000080 \times \underset{\text{密度(kg/m}^3\text{)}}{1400} \times \underset{\text{ロス率}}{1.5} = 0.17 \text{ kg}$$
$$L = 5.600 = 5.600 \text{ m}$$
$$W = \underset{\text{シール幅(m)}}{0.020} \times \underset{\text{シール厚(m)}}{0.003} \times \underset{\text{延長(m)}}{5.600} \times \underset{\text{密度(kg/m}^3\text{)}}{1450} = 0.49 \text{ kg}$$
$$V = \frac{5.60}{\text{延長}} \times \left(\frac{1000}{\text{配置数}} \div 250 \right) = 23 \text{ 本}$$
$$V = 0.000080 \times \underset{\text{密度(kg/m}^3\text{)}}{1250} \times \underset{\text{ロス率}}{1.3} = 0.13 \text{ kg}$$

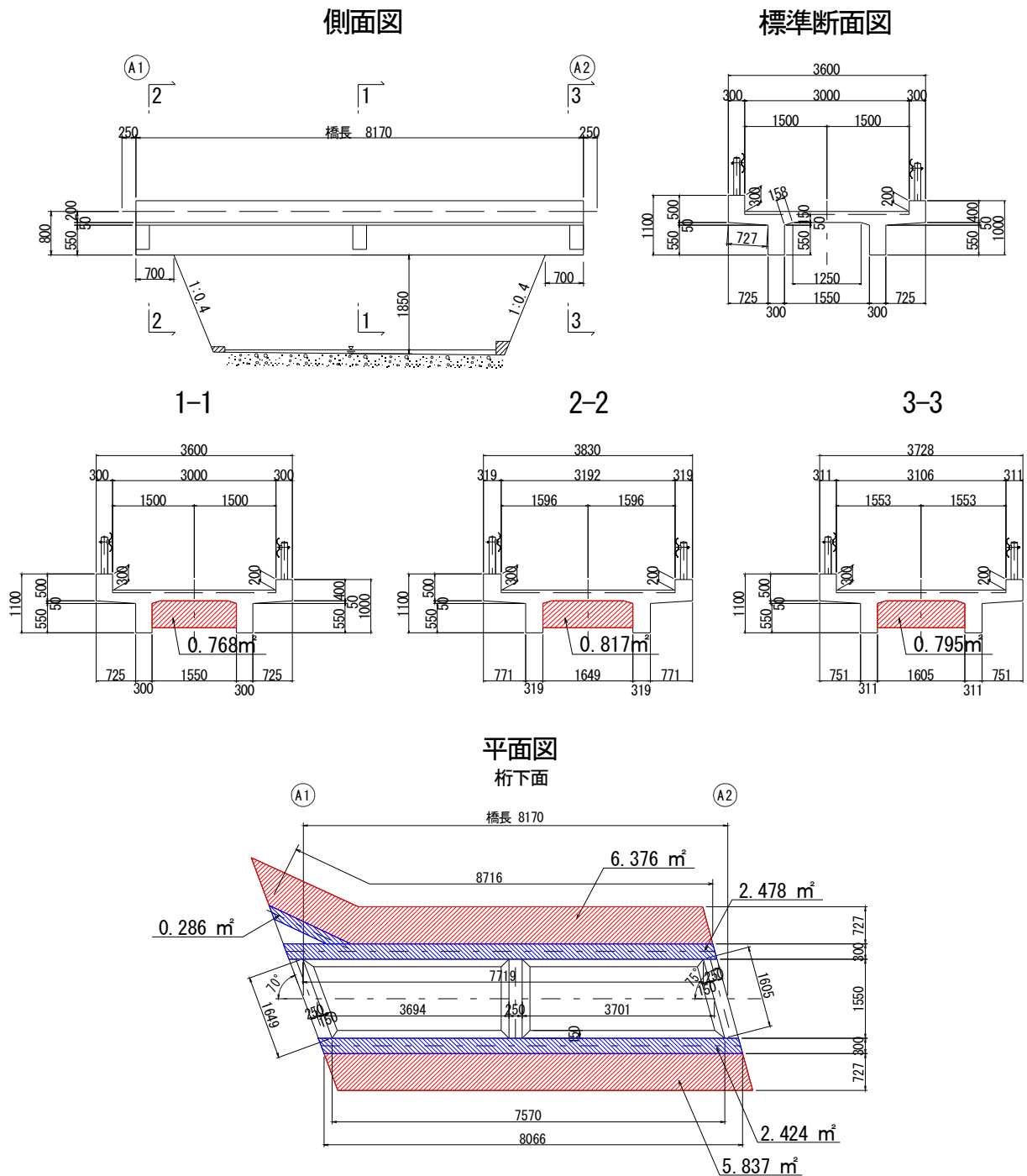
∴ 深さ200倍とする。

(6) ひびわれ充填集計表

[illegible]

※深さはひびわれ幅の200倍根拠:(2002年)コンクリート標準示方書〔性能照査編〕(深さの上限350mm)

6.4 表面含浸工（シラン・シロキサン系表面含浸材）



(1) 表面含浸工

$$\begin{aligned}
 A1 &= 0.286 + 2.478 + 2.424 &= 5.188 \text{ m}^2 \\
 A2 &= 1.566 \times (3.701 + 3.694) &= 11.581 \text{ m}^2 \\
 A3 &= 6.376 + 5.837 &= 12.213 \text{ m}^2 \\
 A4 &= 0.550 \times (8.716 + 8.066) &= 9.230 \text{ m}^2 \\
 A5 &= 0.550 \times \{ (7.570 - 0.250) + (7.719 - 0.250) \} &= 8.134 \text{ m}^2 \\
 A6 &= 0.250 \times (1.605 + 1.649 + 1.550) &= 1.201 \text{ m}^2 \\
 A7 &= 0.768 \times 2 + 0.817 + 0.795 &= 3.148 \text{ m}^2 \\
 \Sigma A &= 50.7 \text{ m}^2
 \end{aligned}$$

6.5 水切対策工(図面参照)

(1) 下地処理

$$A = (8.910 + 8.000) \times 0.025 = 0.4 \text{ m}^2$$

(2) 水切設置工

$$L = 8.910 + 8.000 = 16.9 \text{ m}$$

6.6 伸縮目地対策工

(1) 止水目地材 t=10mm用

$$L = 4.860 + 3.730 = 8.590 \text{ m}$$

(2) 高弾性シール材 (ポリブタジエン系シール材) t=50mm, w=10mm

$$L = 4.860 + 3.730 = 8.590 \text{ m}$$

重量

$$W = 0.010 \times 0.050 \times 8.590 \times 1300 = 5.584 \text{ kg}$$

目地幅 舗装厚 延長 (kg/m3)
単位質量

6.7 高欄工(ガードレール Gr-C-2B)

(1) 支柱撤去

$$N = 1 = 1 \text{ 本}$$

(3) ~~コンクリート削孔~~ ~~φ22x0.25~~

$$= 8 \text{ 孔}$$

(4) レール設置

~~・支柱 φ114.3x4.5~~

$$= 2 \text{ 本}$$

・レール延長

$$L = 2.350 + 6.730 + 9.000 - 0.500 \times 4 = 16.080 \text{ m}$$

・袖ビーム

$$N = 4 = 4 \text{ 枚}$$

6.8 安全管理費

1. 交通誘導員B

(1) 全面通行止め期間

第5章施工計画より

2 日 x 2 人

= 4 人